

自己評価および外部評価結果(すみれ)

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	管理者・職員ともに理念を理解し、よく実践している。	スタッフルームに掲示し、ときには唱和することもある。新人にはオリエンテーションで伝えている。家庭的でゆったりとした空間、地域社会との繋がりを掲げ、日々の中で実現を目指している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の方から大事にされ、大変よく協力していただいている。施設代表がずっとこの地域に住んでいて、日ごろから仲良くしているので地域住民との付き合いは大変良好である。	お祭りや防災活動など地域での活動が盛んな地域である。盆踊りの時期には練習にもお呼びがかかり、利用者と一緒に参加している。秋には子ども神輿の来所が恒例となり、利用者も楽しみにしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の公民館や近隣の地域の事業所などで講演会や座談会・勉強会などを開催している。	/	/
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議での話題を職員間で話しあったり家族に報告したりしてサービスの向上に役立てている。地域の方との関係がより深まっている。	2ヶ月に1回、定期的開催している。民生委員や町内会長、地域住民、地域包括支援センター職員、家族などが参加している。お花見の場所を相談したり、防災関係について話をしたり、ざっくばらんに話し合いができています。	市町村担当者に参加していただけるように、今後働きかけをしてみようと考えているようです。是非、実現するよう期待します。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	地域の高齢者支援センターとは日常的に連絡をとっており、また推進会議にも毎回参加していただき、良い関係が築けている。	分からないことがあれば、施設長が中心となり市町村担当課に連絡し、相談している。ケースワーカーとも連携を図り、年1回程度訪問もある。地域包括支援センターが主催する講習や交流会などにはできるだけ参加できるよう努めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は全くないといっても過言ではないと思います。施設も職員もよく周知しており、拘束のない介護を実践するため介護力の向上に日々努めている。	身体拘束をしないケアを目指し、玄関やユニット間のドアも開放している。利用者もユニット間を自由に行き来し、自分の居心地のよい場所で過ごしている。職員は利用者の動向をいつも確認し、見守りしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	常時おこなうカンファレンスでよく話し合っており、職員同志お互い気を付けている。介護に過重なストレスをためないように悩みを話し合ったりして、チームワークを大事にしている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修に参加したり自社研修をしたりして制度の理解を深めている。成年後見制度を施設側・家族・司法書士などと話し合い活用に至ったケースもあり職員も周知している。お金の管理も丁寧に行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	説明は丁寧に行い十分了解を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	施設内に目安箱をおいて気軽に意見を伝えてもらうようにしている。また家族会を毎年開催し、意見・要望などを伺うようにしている。また、家族の訪問がとて多く日常的によく話し合っている。家族が訪問しやすい意見の言いやすい施設でありたいと常にオープンな雰囲気になっている。	玄関には、メッセージボックスを設置している。面会時に職員から積極的に声をかけ、利用者の状況や支援内容を説明し、意見や要望を聞くようにしている。家族会は年1回開催し、食事会を通じて家族同士の交流や利用者の普段の生活を見てもらっている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員の代表と常時話し合いを行っており、職員の意見をよく聞いている。もっともっと多くの提案がほしいと思っている。	職員同士の関係性がとてもよく、日常業務の中でいろいろな提案や意見を聞き、できることは取り入れている。不定期ではあるがリーダー会議を行い、職員からの意見を検討したり、施設長からの要望を聞いたりしている。	職員からの意見がもっと欲しいと考えられています。職員の意見を多く集めるために、職員アンケートや意識調査を実施してみたいかと思いますが。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員が生きがいを持って働けるようできるだけ配慮をしている。サービス残業は全くなく資格には十分な手当をつけている。職員の希望をよく聞いている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外の研修はよく行うよう努力している。施設内での研修は特によくやっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者との交流はよくやっている。他の事業所も良く訪れるし、介護・医療に関する悩みの相談をよくしており、情報交換もよくできている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所時には環境の変化で不安になったり混乱したり落ち着かなかったりします。職員は安心して生活していただくために創意工夫しながら信頼関係の構築に努めています。ご家族も協力していただいています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービス導入時にはご家族はどうしてもご本人に対して申し訳ない気持ちや後ろめたさがあります。これまでのご苦労や悩み・要望をしっかり伺って、サービスの利用がよかったとっていただけるよう安心できる介護を行うよう努力している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人・ご家族のお話をしっかり聞き、入所時まで担当していたケアマネージャーと連絡を密にとりながらご本人・ご家族にとって最適な選択になるよう努めている。ホームと隣接しているデイサービスはよく協力してもらっている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人がご自宅での生活と同じような気持ちで過ごし、持てる能力をしっかりと生かして自立した生活が継続できるよう職員と共にお互いに協力して生活ができるようにしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ホームでの介護には家族の協力がとても大事です。ご家族も職員とともに本人を支えていくよう協力いただいています。介護の喜び・また難しさをともに共有してご本人がより良い生活になるよう協力いただいています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族・ご親族・友人がよく訪れている。また、ご家族との外出・なじみの美容院への外出・法事などの親戚の集いへの参加など以前の生活の継続がスムーズにしている。またご自宅で使っておられた調度品などの持ち込み、家族写真等思いでのものなどもってきていただき以前の生活の継続を図っている。	面会はいつでも受け入れており、家族や近所の方など訪問が多い。気候のいいときにはもともと住んでいた場所にドライブででかけることもある。馴染みの美容院には家族の協力もあり、出かけている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士が支えあうような関係になるよう職員はしっかり配慮し、良い共同生活になるよう努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用中に培った関係で、その後のご本人・ご家族の様子に気を配っている。相談にのり必要な援助をしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人・ご家族・在宅時のケアマネなどからこれまでの暮らし方を伺い、本人の立場に立ってどのような暮らしを望んでおられるか常に検討している。	利用者本人から〇〇がしたい等の思いを発することが少ない為、家族や在宅時のケアマネージャーから好きなことや生活歴を聞き、本人の思いを察するようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族・在宅時のケアマネージャーなどから情報の収集に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居前及び入居後に於いても一日の過ごし方、心身の状態、有する力等についてすべての関係者と協力しながら現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画を作成する前にすべての職員からアセスメントに協力してもらい、職員・ご家族・できればご本人と会議を持ち、現状に即した介護計画を作成している。	担当職員が中心となりアセスメントやプランを作成し、最終的に計画作成担当者が確認をしている。家族が来たときにスタッフが集まり、ミニカンファレンスを開いたり、何か変化があったときにはすぐに話し合い、プランに反映している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子・ケアの実践などすべて記録している。職員は情報の交換に努め、介護の実践に活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化ちかくでの	一人ひとりニーズが違うので、穏やかで安心して生活していただくために、一人一人に柔軟な対応をしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の行事には積極的に参加している。また地域からいろいろな援助をいただいている。近くのスーパーでの買い物、近所のお宅への訪問、お庭の見物、落ち着いた住宅地での散歩等豊かな暮らしになるよう地域資源を活用している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医と事業所の関係はとても良好で、本人・ご家族への医師の対応も大変よく、適切な医療が行われている。	入居時に協力医療機関にかかりつけ医を変更する方が多い。専門科などは今までの医療機関に受診している。要介護4、5の利用者には月1回往診があり、要介護1～3の利用者は通院支援をしている。協力医には24時間いつでも連絡ができ、適切な医療を受けることができる。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師と介護職員は良いチームワークで情報交換はうまくできている。医師とも連携がよくできていて、適切に医療が提供できている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は連携の医師が適切に対応してくれている。施設も本人の状態の提供を迅速に行っている。入院先の医師・ソーシャルワーカーなどと密に連絡をとり状態の把握に努めている。退院時は入院先の医師・スタッフと施設の管理者・看護師・ケアマネなどと会議をもち、退院後の介護について話合っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に事業所の考えを書面で説明している。重度化した時は担当の医師・ご家族・管理者・看護師・ケアマネ・介護職員などと都度説明・相談しながら対応を検討している。	入居時に看取り支援について事業所で出来る事、出来ない事などについて説明をしている。希望があれば看取り支援まで行っている。看取り支援後の家族のフォローを始め、職員で反省会を開き、次の支援に繋げている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	外部での研修・自社での研修などで学習している。また看護師の指導で応急救置や初期対応の訓練をしている。医師・看護師と連絡を取りながら適切に対応している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域の災害対策の中に位置づけられ、協力関係ができています。事業所でも年2回防災訓練を行っている。	年2回、防災設備の点検に合わせて避難訓練を実施している。消火器の使い方や設備の説明などもある。同敷地内にあるデイサービスとも共同し、避難の応援なども確認している。	水害や地震に対する避難の段取りや避難場所などがあいまいである。マニュアル化など期待します。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	建物の設計がプライバシーに配慮したものになっている。各居室にトイレ・洗面を配し、ゆったりした居住空間になっている。職員の言葉かけ・マナーにも個人の人格を尊重した対応をするよう常に配慮している。	パット交換やトイレ誘導時は、大きな声で声掛けを行わず、部屋の扉も閉めるようにしている。社会人としての服装や言葉遣いなどマナー研修を年2回実施している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者が自分の思いや希望を遠慮なく自由に表現できるよう、職員は利用者の声を傾聴しすべてを受け入れる姿勢で接するようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の大きな流れはあるものの、一日の介護の決まりごととは作らず、一人ひとりの様子を見ながら希望に添った生活になるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	認知症の方は身だしなみを整えるのが難しくなっています。その人らしくあるために洗顔・整髪・お化粧品・服選びなど身だしなみを整える援助をしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の嗜好・食事形態などを考慮しながら職員が献立し、利用者と一緒に買い物・調理・片付け等を行っています。季節の行事食・お誕生日のお祝い食等楽しい食事になるよう心掛けています。	職員が献立を作成し、毎日食材を買い出し、調理を行っている。寒い日には鍋にしようかな～等、利用者と話をし、ときに変えることもある。お誕生日には食べたい物を聞き、外食など対応している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎回、食事量等記録し、栄養バランス・水分量などチェックしています。医師・看護師・栄養士などと相談しながら一人ひとりの状態に合わせて支援しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後一人ひとりに合わせた口腔ケアをしています。訪問歯科・歯科衛生士の指導のもと適切な口腔ケアをしています。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	各居室にトイレがあるため遠慮なく使用している。失敗が少しでもないように早めのトイレ誘導を心がけています。入所してから排泄の自立された方が多くいる。	各部屋にトイレがある為、プライバシー空間が保たれている。時間を見て声をかけたり、そわそわする動作藤を見て声をかけたりしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	高齢者は腸の機能が弱くなっていたり、水分摂取が少なかったりで便秘の方がとても多いと思われる。食べ物・飲み物を工夫し、また腸の機能をよくする運動など個々に応じた対応をしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	一人ひとりの生活習慣を大切に希望に添った入浴を楽しんでいただいています。体を清潔にし、快適な生活になるよう支援しています。	最低週2回以上、入浴ができるよう支援している。毎日入浴したい希望がある場合は対応している。入浴剤を使用し、気分転換をしてみようこともある。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活習慣や健康状態に合わせて横になったり眠っていただいたりしています。室温に配慮したり静かな優しい音楽を流したりして快適に過ごしていただいています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	提携している薬局の薬剤師が薬の管理をしています。薬の内容は看護師・介護職員共によく理解しています。間違いなく指示通り服薬できるよう介護職員は細心の注意を払って援助しています。症状に変化があれば速やかに医師・看護師に報告しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	花の水やり・草とり・掃除などこれまでの生活の中でしてきたことの継続を大切にして張り合いのある生活を支援しています。また洗濯物を干したりたたんだり食事の後片付け・食器洗い等家事を毎日楽しんでます。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	毎日、できる限り近所を散歩しています。地域の方と立ち話をするこもたびたびあります。新聞・テレビなどで紹介されていた場所などへドライブに出かけることも良くあります。また年に一回バスで遠出します。また外食に出かけることがあります。	毎日の食材の買い出し、お散歩など日常的に出かけている。近くに保育園ができたため、園庭の子ども達を眺めにいくこともある。毎年バス旅行をデイサービスと合同で行い、家族も参加している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	原則、お金は預かっていません。しかし個人々の希望や管理能力によってはお金を所持されている方もおられます。買い物はたてかえてご家族と相談しながら援助しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話がかかってきたり、かけたりはとても楽しいし本人・ご家族なども安心されるので全く自由に通話されています。携帯を持っておられるご利用者もおられます。手紙もまたいただいたり出したり職員の援助で交流されています。年賀状の援助もしました。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共同の空間には絵画・花・ピアノなどを配し、高齢者の方がホットするようなご自宅にしているような空間作りを心がけて居ます。広さ・明かり・温度などは快適だと思います。またにおいなどにも気を配り気持ちよく過ごしていただいています。当事業所のもっとも力を入れているところです。	自宅にいるというコンセプトの元、大きなリビングのような雰囲気がある。天井は高く、窓も大きい為、開放感がある。中庭には季節の花やオリーブの木があり、楽しませてくれる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共同空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同志で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	畳のスペースがあったり、ソファ・ベンチがあったりウッドデッキがあったりしているいろいろホッとするスペースが各所にあります。また憩える庭があり気分転換を図っています。職員もこの快適な空間で介護負担の軽減になっていると思います。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人のこれまでの生活に配慮して居心地良く過ごせるようご家族が工夫してくださっています。それぞれ個性があって感心させられます。どのお部屋もステキです。	全室トイレ、洗面台、クローゼット付きの造りとなっている。ドアを開けていても丸見えにならないようにクローゼットが前面にある。バイクのポスターや趣味の本、仏壇、家族の写真など個人の色が表れている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりのできること・わかることを活かして生活が送れるよう自由な空間になっている。キッチンオープンですぐ作業でき、新聞・雑誌は常に見やすくなっており、広くて開放的な空間は気分が前向きになります。利用者の安全のためにわざとらしくない見守りができるよう工夫した造りになっている。		